

第7回高大接続勉強会議事要旨
テーマ「名桜大学 高大接続勉強会の目指すもの」

1. 目的

高大接続の実質化を実現するためには、大学入試改革に加えて、人材育成を目的とした高校教育と大学教育の相互理解に基づく一体的な教育改革が不可欠です。本会は、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることを目的とします。

2. 日時・会場

日 時：令和4年8月16日（火）14:00 ～ 16:30

場 所：名桜大学 環太平洋地域文化研究所1F 研修会議室

3. 出席者

沖縄県北部地区内高等学校（7校5名）

宮城 通就 （辺土名高等学校 進路指導部主任）

代理出席：仲里 欠席 新川 優 （北山高等学校 進路指導部）

比嘉 啓信 （本部高等学校 進路指導部主任）

島袋 修 （名護高等学校 進路指導部主任）

比嘉 江利子 （宜野座高等学校 進路指導主任）

欠席 玉城 允博 （北部農林高等学校 進路指導部）

欠席 金城 武史 （名護商工高等学校 教諭）

名桜大学（12名）

林 優子 （副学長教育）

鈴木 啓子 （副学長研究）

仲尾次 洋子 （国際学群長）

奥本 正 （人間健康学部長）

木村 堅一 （教務部長、学長補佐）

佐久本 功達 （リベラルアーツ機構長）

高安 美智子 （北部地区教育担当 学長補佐）

山城 智史 （言語学習センター長）

大峰 光博 （ライティングセンター長）

上江洲 安幸 （入試広報課長）

玉城 正貴 （入試広報課係長）

神谷 順子 （教務課学習支援係主査）

欠席 立津 慶幸 （数理学習センター長、IR 室員）

4. プログラム及び勉強会要旨

14:00 開会

佐久本功達リベラルアーツ機構長から開会のあいさつ、参加者一人一人の自己紹介を行った後に、以下のとおり進行した。

14:10～14:20 「名桜大学高大接続勉強会の趣旨説明」

高安学長補佐より資料「名桜大学高大接続勉強会の目指すもの」に基づき、名桜大学高大接続勉強会の趣旨の説明があった。

14:20～15:30 「2018 年度入学生の 4 年間の学びと進路状況」

木村堅一教務部長より資料「2018 年度入学生の 4 年間の学びと進路状況 ―北部地域高校の入学者を中心に―」に基づき説明、発表があった。

以下、木村先生からのメール文

北部地域 7 校出身者 63 名の傾向としては、

○その 48 名が推薦入試（北部枠）で入学していること

○その他の学生に比べて入学時の基礎学力（英語、数学、国語力）や学ぶ意識が低いこと

○その他の学生に比べても休学、退学・除籍率、卒業率、成績評価、進路状況は変わらないこと

○全体の学生も含めて、入学時の基礎学力と成績評価、進路状況の間に強い関係性がなかったこと

過去の高大接続勉強会では、高校時代の基礎学力や学ぶ意識が大学入学後の学修・進路に影響するので、大学だけでなく、高校教育の改革や入学前教育を一緒に取り組んでいましょうという方向で進めてきました。しかし「高校までの基礎学力・学習スタイル」→「大学への適応、成績、進路」という仮説を明確に裏付けるデータではなかったため、この事実を、どう理解・評価するかを論点としました。

その論点について議論した結果、

○北部地域の学生の力（人間力）が発揮され、名桜大学でしっかりと学び、卒業時には他の学生と同じ程度まで成長したのではないか

○スポーツ健康学科では、北部学生の成績に課題があると理解しており、2018 年度だけでなく、入学年度別、学科別に分析が必要ではないか

○入学前の基礎学力ではなく、学習意欲や目標の明確さが重要だったのではないか

○高校時代コロナ禍で過ごし、かつ入試改革後の 2021 年度以降入学生はどうなっているのか

○進路も単なる就職だけでなく、その後の追跡調査を行うと貴重なデータになるだろうなどの意見がでました。

15:30～15:40 休 憩

15 : 40～16 : 10 情報交換

司会：どうぞよろしくお願いします。

高校：総合型選抜の面接、小論文、実績報告書、エントリーシート、プレゼン等の資料が多い、今回から PDF での提出にしたことにより負担は少し減った。本校にフロンティア科があり、生徒の受験指導は 17 時から行なっている状況です。

司会：ありがとうございます。小論文についてライティングセンター長から何かありましたらお願いします。

大学：（ライティングセンター長）：総合問題になっているため学科によって配分が違うので、小論文の対策は必要になってくる。

司会：ありがとうございます。

大学：文科省の高大接続勉強会システム会議で、高校の教員が受験指導に追われるような高校教育から脱出するために、準備のできない入試を大学は行うべきと意見が出たが、実際は現場では逆で入試に係る業務がかなり負担である、大学として何ができるのだろうと思っている、例えば、自分で考えて自分で出来るような学生、生徒に育てると思っている時に入試の出願手続きを手取り足取りしないと出来ないような出願方法はどうか、生徒自身に出願手続きをさせる改革が必要だと思うが、高校の意見をお伺いしたい。

大学：主体的に生徒が出願書類を作成、最終的には教員が点検を行うが、書き方、添削指導を行っているので高校教員の業務が増えて大変な状況になっている。

司会：いかがでしょうか。

高校：本校のような小規模高校では、AO入試で生徒の添削指導を行うことで、生徒気づかなかった事、自己肯定感、視野の広がり等を当短期間で成長していることが感じられる。大学側にどこまで評価されているかを聞きたいところです。いろいろな考え方があ。先ほどのデータにあったように学びの意欲がある、刺激され引き出し方かと思っているので検証する必要がある。

大学：本学も大学生になっても、教員は履歴書指導、面接指導を行っている。引き出し方がうまくいけば良くなると思う。5教科を学ぶ勉強と大学入学後の勉強は少し違う。学ぶ姿勢、学び方を学ぶ部分で伸びている学生はいる。名桜大学の学生で、沖縄県北部の学生は気が付く、まわりが見える。評価方法を何ではかるかが難しく、保護者等に対しての評価を数値で公開することがある。高大接続も成功するかしないではなく何が高大接続かをもう一度、改めて考えていく必要がある。

高校：いろんな高校がある指導の過程で、時間的に余裕がない。以前に推薦入試で事前提出型の入試があったが、教員が指導して手を加えている状況。小論文後出し、原則教員が手を加えないことになっているが、絶対手を加えていると思う。提出書類を少なくする方法はあるのか。高校生が書いた文章と教員が手を加えた文章との識別出来ると生徒の本当の学力、本当の力がわかると思うが、難しい問題と思う。

高校：削れる書類はあるのか。入学願書と小論文だけで十分でしょうか。

大学：エントリーシートと実績報告書、大学に入学してレポートを書ける

大学：試験問題については検討する。書類に関しては文科省からの例がありそれに基づいて作成している。決まった物がある。

高校：この場で書類の話しても意味がない。

大学：そうです。今回、努力のプロセスを無くしたかったが、必要であることでエントリーシートは分けている。

高校：名桜大学で削れるところは削除していることですね。

大学：エントリーシートの中にやりたいことは含めている。1年目は分からなかったので、プロセスをしっかり作った。努力のプロセスは読む方も大変で評価が難しい。令和7年、8年に向けて入試の内容について検討中です。プレゼンをしない部分の評価の仕方をどのようにしていくか。

高校：試験を考えるうえで看護学科で総合問題、健康情報学科の推薦入試で共通テスト導入しての結果等の機会があれば情報提供して欲しい。

大学：今回、国際学部が今まで通りのやり方、人間健康学部が学校推薦から総合問題を検証して、全学的に検討中です。

大学：書類が減るかどうかが高校側から提出されている3要素が分かれば、書類は減ってくる。実績報告書を提出してもらっている。学力以外の評価、得点化が難しい。

高校：高校内でも差がある。

大学：高校で北部地区の学力の問題を議論したり、捉えているのかお聞きしたい。

高校：低いと思う。刺激がない競争相手がいない、分母の数が少ないので自分の立ち位置が分からない。都会で出来ない学ぶ感性を育てる。競争ではなく、一緒に何かをしていく大切さはたけている、気づきに繋がっている。アウトプット、インプットが強い生徒は中南部に進学している。学力の定義が難しいと思う。学力は、アウトプット、インプットの勝負ではないと生徒に教えている。知識の蓄積はA Iに任せた方が良く話をしている。センス、見せ方は感性を磨く、アウトプット、インプットは才能ではない訓練、勉強は訓練、習慣、スポーツは才能、生徒のスイッチを押している。厳しい高校の教師の役目だと思っている。

高校：本校も一緒に成績の良い学生は名護、中南部の高校に進学している。もう一度、生徒たちの自己肯定感を刺激するために彼らのスイッチをどこで押すのかについて手探りしながら行っている。手当が出来る生徒たちで、そのようなことがなかなか難しい非常に学力の厳しい生徒たちが小学校から取り残されてきた生徒たちがいる。この生徒たちに最低限の社会で生きていく人間らしさを教えている。インプット、アウトプットの競争に負けた生徒たちのモチベーションをもう一回繋げながら大学で引っ張り上げてもらい人生の開き方良い人材育成に繋がるのでは、高校と大学で連携出来たら良い。

高校：1年次に行なったテストを4年次には行わないのか。確実にどれだけ伸びたかが分かる。

大学：(言語学習センター長)高校での学力に対するとらえ方を大学でも理解して、共通認

識を持つことが大事。中国語を担当しているが、中国語で北部の学生を意識したのは、成績の良い学生は高校でも授業に中国語を受講しており基礎力があり抜群に成績が良い。英語に関して、高校で英語をどのように教え、どのようにつまづいた子がいる、この部分は出来ている等情報交換を英語担当の先生と共有できたら高大接続における人材育成に繋げられる。将来的に 1 年次から 4 年次までの英語の試験を行いどのように伸びているかを追っていきたいと考えている。

大学：人間健康学部では、1 年から 4 年までに社会的基礎力を測るプログを行っている。学力以外のデータの報告が出来ると思う。

司会：お願いします

高校：たくさんのデータを作成して頂き興味深いこれをそのまま分析するより、今後、このデータをどのように使っていくのか、高大接続の課題になるのでは。過去の就職のデータがあったら離職率、活躍しているかが追える。日本は大きく教育改革を行っていて、例えば、インプット、アウトプット学力だけではなく、幅広く生きる力、人間性を求めている。看護師の国家試験の合格率が数値で表せたら良い。何年間の長いスパンの中で検証が出来るのではと思う。感想です。

司会：どうもありがとうございました。報告事項及び意見交換をお願いいたします。

16:10 ～16:25 報告事項及び意見交換

高安学長補佐より、「第 5 回、第 6 回名桜大学高大接続勉強会実施報告書」、「2022 年度入学予定者の入学前特別講座」の報告、「探究 STEAM 教育」と「英語教育」研修の案内、入学前特別講座に関する確認事項として、前年度同様、講座参加者を北部 7 校の入学予定者のみに限定すると報告があった。また、第 8 回高大接続勉強会の日程として 11 月 28 日（月）14:00～16:30 に予定しているので参加の可否を、後日のアンケートで回答するよう依頼した。

皆さんの意見が伺えて良い勉強会になった、勉強会は疑問に思うことはたくさんあるが、なかなか答えは出ない、それぞれがなんだかの自分なりの回答を見つけながら、高校と大学が連携していく事は重要と思っているので引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

16:25 ～ 閉 会

